3 「種をまき、育てる」
—— 探そう！さらなる農の可能性

大津の農業をこれから将来にわたって守り大きくしていくためには、伝統的な取り組みを大事にしつつも、新しい取り組みにチャレンジすることが重要です。

そこで、大津市では今後の主力農作物を選定し、その生産の拡大に取り組みます。また、生産する以外にも、果樹への転作、ICTやIoT（Internet of Things）などの新しい技術を活用した農業、「親が守り、子が攻める」2世代型の農業など、積極的なチャレンジを行います。

また平成27年に新設された龍谷大学農学部など、市内にある各大学との連携を深めます。

基本施策

❶. 大津の主力農産物をつくり、生産量を増やします
❷. 安全安心な農産物をたくさん作ります
❸. 新しい農業にチャレンジします
❹. これまでにない大津らしい新商品を作ります
❺. 大学等との連携を深めます

大津市のチャレンジ！

●「おおつ主力農産物（仮称）」を定め、販売用野菜の作付面積をさらに広げます！

【市内における販売用野菜の作付面積】

現　状	目　標		
2016年	2021年（1期）	2025年（2期）	2029年（3期）
19.6ha	22.0ha	24.0ha	25.0ha

■具体的取り組み（これらの取り組みは関係機関と協議の上、優先順位をつけて取り組みます。）

基本施策	具体的取り組み	備考
1. 大津の主力農産物をつくり、生産量を増やします	① 地域ごとに、これまで生産されてきた農産物を中心として「おおつ主力農産物（仮称）」を選びます。	
	② 地域ごとに「おおつ主力農産物（仮称）」のモデル生産者を選定し、栽培を実践し、技術の確立につとめます。	
	③ 地域ごとに「おおつ主力農産物（仮称）」の栽培技術について勉強会を行い、生産を増やします。	
2. 安全安心な農産物をたくさん作ります	① 農薬の取扱について定期的な勉強会を開催し、生産者の理解を深めます。	
	② 農薬取扱ガイドラインを整備し、市内生産者の普及だけでなく、消費者向けに情報発信します。	
3. 新しい農業にチャレンジします	① 水田から果樹への転作を行う農業モデルを検討し、その取り組みについて情報発信します。	
	② ICTやIoT、ドローンなど新しい技術を導入した農業モデルを検討し、その取り組みについて情報発信します。	
	③ 親子で違う農産物を生産する農業モデルを検討し、その取り組みについて情報発信します。	
	④ 獣害に強い作物を選び、その栽培技術について研究し、情報発信します。	
4. これまでにない大津らしい新商品を作ります	① 市内の生産者やその農産物を紹介するウェブサイトなどを通じて、市内外の料理人や商工業者と市内の生産者をマッチングします。	
	② 農商工連携や6次産業化に向けた事業を支援します。	
5. 大学等との連携を深めます	① 生産者、大学や市農林水産課が連携し、6次産業化による新商品の開発に取り組みます。	
	② 大学や市観光振興課、市農林水産課によるプロジェクトチームを作り、食をテーマとした企画に取り組みます。	

コラム 大津のオリジナル「比良スイカ」

大津市に「スイカ」の産地があることは、みなさんご存知でしょうか。大津市北部の比良周辺では昔からスイカ栽培が盛んにおこなわれ、7月ごろから大小の丸いスイカが直売所の軒先に並び始めます。甘みが強く、口触りの良い比良スイカは、まさにジューシーの一言に尽きますが、実は農家の方はほとんど水を与えていないのです。

そもそもスイカはアフリカが原産地であり砂漠が故郷なのです。そんな砂漠生まれのスイカだからこそ、比良山系の水はけのよい砂地と相性が良く、昔から栽培が続けられてきました。今では栽培地域は比良地域に限定され、さらに滋賀県の環境こだわり農産物認証に適合した優良品だけが「比良スイカ」を名乗ることができます。

7月中頃には市内の農産物直売所に並べられ、みずみずしい夏の訪れを告げてくれます。